2011.7.15

Contents

音のインテリア

連載
HABITAな風景
住まいは巣まい
キニナルマドリ
住まいのオーダーメード館403
住まい文化の栞
住健住康
Green Earth
わたしたちのHABITA
豆ハビ
5th ROOM

梁とあそぶ

わが家の中心は
キッチンでもリビングでもない。
家の真ん中に
空を切り取る窓がある。
わが家の２階にある
SORA・MADOからの光は
１階にも届く。
こいのぼり
風鈴
ぶらんこ
ハンモック
家の中から繋がる、
SORA・MADOの梁が大活躍。
ちょっとしたテーブルも
吊るして作ってみたら
おもしろそう。
子どもたちもはしゃぎ回る。
空と梁を見上げていると
いろんなアイデアが
浮かんでくる。

Weekly HABITA 055

三澤千代治の 住まいは巣まい

変な土地造成

東日本大震災の復旧復興、特に被災地の街づくりが、緊急の課題となっています。しかし街づくりというとき、日本のこれまでのやり方をみていると、首をかしげたくなるようなケースがずいぶんあります。

山を削り、緑地を壊し、宅地、道路、擁壁などをつくり上げていくのですから、自然破壊といわれたって仕方がありません。コスト面でもきわめて高いものになってしまいます。

擁壁をつくるのは安全性を確保するためということがよくいわれますが、これも疑問です。何万年も崩れなかった自然のものはできるかぎり人の手を加えないほうがいいのです。その方が土地造成費も安くなります。

また、山を崩し、自然の緑を切り倒しておきながら、また後で植栽をしていくというナンセンスなことをやっています。何十年、何百年という歳月かけて育った緑をいかに残すか、活用するかに精いっぱいの工夫をした方がいいと思うのです。

欧米では、こんな馬鹿げた土地造成はしません。自然環境を大切にしながら土地を有効活用する「ランドプランニング」という手法が確立しているのです。

私は、このランドプランニングに早くから注目し、30年ほど前にカナダから導入、日本の風土や習慣に適合するように改善を重ねてきています。

（MISAWA・international 社長）

音のインテリア

見本

インテリアと言えばいちばんに思い浮かぶのは、好みの家具に合わせて様々な調度品をコーディネートすることです。室内環境の中で日常的に暮らす以上は、インテリアが大きな影響力を持っていることは否めません。空間の中に浸りながら五感で快適さを感じています。その意味では、リアルに目で見て感じるインテリアではありませんが、音も大切なインテリアのひとつです。

ヘッドホンをはずしてみませんか?

音響の世界にも、他の技術にもある大変革を起こしている部分と、逆に全く変わりもしない部分が共存しています。とくに大きく変わってきた部分は、ある意味では私たちのライフスタイルを一変させたと言っても過言ではありません。しかもその変革は世界的な規模で変わりました。

その発端は日本から始まりました。ソニーが「ウォークマン」を発売しヒットしました。各社が追随したことはもちろんですが、現在ではアップルのiPodによってさらに進化の速度を速めています。今や情報時代の中にあり、楽曲の入手経路まで変わりました。まさに「ウォークマン」の名の通りに、町中を見てもヘッドホンやイヤホンをつけた人がいるのはふつうの風景です。音楽は家でじっくり楽しむものではなく、人と一緒に外に出かけどこでも楽しむものになりました。そして集中力を高めるために、スポーツの最中に音楽を聴く人もいます。

もちろんこうした新しい音楽との付き合い方を否定することはできませんが、音楽が大切なコミュニケーションツールであるということを忘れていないでしょうか。イヤホンやヘッドホンをはずしてスピーカーから聞こえる音を楽しんでみるのです。しかも一人で聴くのではなく、家族や仲間と一緒に聴きます。室内の空気を振動させて聴く音には、共通の時間を過ごしている一体感を感じることができるでしょう。

また人は耳だけで聞いているのではなく、肌や胸でも空気の振動を拾いながら聴いています。鼓膜だけで聞いているのとは、臨場感も違います。室内に漂う空気から変わってきたように感じます。家具や調度品やカーテンや色彩とはまた違う、音もインテリアの一部になるのです。

MISAWA international

音のインテリア

音は変わらないもの

音をインテリアとして考えるのであれば、こだわりたい部分も出てきます。いかに良い音響環境で聞くことができるかと言うことです。家族や仲間と揃って耳を傾けるにしてもより良い条件で聞きたいと願うのは当然のことです。ホールなどの計画では、残響時間などを計算して設計しますが一般住宅では難しいことです。ましてや同じ居住空間でも家庭によって調度品の種類や位置も違うので、音響環境は個別のものとなります。

こうした条件の中、良い音を聴くもっとも単純な答えがひとつあります。それは内装に木材を多く使っておくことです。それというのも、木材の持つ音響効果が優れているからです。コンサートホールなどでも、ホールの内装に木材がよく使われています。東京のオペラシティのホールやサントリーホールなど、日本の中でも数え上げたらきりがないほどです。石膏ボードを下地にしたビニールクロスの仕上げでは、どうしても堅い音響の空間しかできません。ミニコンサートなどで古民家が活用されている事例も、実はこうした音響面での優位性があるのです。とくに梁などの無垢の木材がむき出しになっているのが効果を上げているのかも知れません。

こうした木材の音響面での優位性に、確信を与えてくれるのは木材を使った楽器が多いことでも分かります。もっともメジャーな楽器であるギターもピアノも木材でできています。日本の琴も中国の琵琶も木製です。木材がなければ世界の楽器の大半が存在しないと言っても良いでしょう。またバイオリンのストラディバリウスなどの名器も同様です。木材は年数を重ねることで、さらに音響効果を高めるとも考えられています。長い歴史の中で私たち人間は音響の装置として木材を使ってきたのです。木材のインテリアは目で見てなごむだけではなく、耳で聞く環境としても適しているのです。

同じように音に関して変わらないもののーつにスピーカーがあります。音響器具も大きな進化をしてきましたが、ヘッドホンをはずして家族や仲間と一緒に音楽鑑賞を楽しむのであれば、スピーカーを欠かすことはできません。真空管がなくなり、アナログのレコードからデジタルのフラッシュメモリーまで進化しても、室内の空気を振動させて音を出すスピーカーの基本的な原理は変わることがないのです。そしてこのスピーカーにも、こだわると木材にたどりつくことになります。

変わらないことの価値

スピーカーの原理は変化がなくても、生産する企業の形態は変化があります。世界的に名の通ったメーカーは、ハイエンドの機種から大量生産のプロダクト中心の経営に移行しています。知名度が上がるとブランド名だけで求める人が増えるのです。こうした中でもこだわりのスピーカーを作り続けているブランドがあります。スピーカー専用のメーカーであるDYNAUDIO（ディナウディオ）です。

デンマークユトランド半島にあるスカンデンボルグにDYNAUDIOはあります。1977年に創業されて、一貫してハイエンドのスピーカーを専業にして造り続けています。工場というよりは工房と呼ぶ方がふさわしく、多くの職人がスピーカーの製造に携わっています。

DYNAUDIOブランドを象徴するのは、スピーカーの生産に必要な部品のほとんどをこの工房内で造りだしていることです。スピーカーの構造そのものは、先に書いた通りに空気を振動させる装置としてはあまり変化のないものです。スピーカー本体はもちろんのこと、ドライバーユニットや磁気回路までこの工場内で製造しています。当然スピーカー専用の磁石であり、DYNAUDIO製品にもっとも適した部品として開発され製造されています。プロダクト製品として、各地から部品を集めて製造している工場とは違い、まさに職人による手作りの工房と呼びたくなるのはこのためです。

その音の品質を認められ、英国国営放送BBCの機材として採用されています。英国以外の機材を採用するのは初めてのことでした。また車載用のスピーカーとしてフォルクスワーゲンやブガッティなどにも採用されています。これらのスピーカーも、すべてこの工房で生産されています。しかしあくまでもプロユースの業務用のスピーカーよりも、一般家庭の音楽鑑賞に使われるホーム用スピーカーをメインとしている企業です。

このDYNAUDIOのスピーカーはすべて木製のものです。当然、同じ工房内で木材加工までもが行われています。音を響かせるスピーカーという用途から、中空構造の木材が使われることはありません。音の品質を安定させて追求するためには、MDFとかHDFと呼ばれる木材チップを固めた密度の高い材料を使い、表面に化粧木材を貼り仕上げます。音質はもちろん、製品の品質感を決める木工の仕上げ工程まで専門の職人が作業をしています。

変化が少ないと言っても、改良が加えられていないわけではありません。こだわりを追求すれば細やかな改良は常にあります。改良を重ねて数年に一度のモデルチェンジも行われます。しかし見た目の変わった点は、微妙な色の違いとしか思えないほどの変更です。「CONCEQUENCE」と言う最上級機種は、1年に100台ほど生産されて25年経ち、2011年にはUltimate Editionとして生まれ変わりましたが、初めてみた人には違いはわからないでしょう。

逆に古くから「CONCEQUENCE」を所有している顧客にとっては、何十年使い続けても陳腐化しない安心感があります。オーディオ機器の中でも変わることの少ないスピーカーは、古い楽器に価値が出るように二度と手に入らない名機のスピーカーになるのです。

音のインテリアとして

ハイエンドなオーディオを考えると、大きな音量で聞くことを想像します。マンションなどの共同住宅では、上下階や隣家への音の心配もありますので遠慮しがちです。この点においては、音響設備は戸建て住宅に住むときのメリットです。しかし現実にはマンションで購入している人も多くいます。実は良いスピーカーを使えば、むしろ音量を絞った時にもレンジの広い音を再現できるので楽しむことができるのです。まさにコミュニケーションのための音のインテリアとしては、最高のBGMの環境がつくれます。

またホームシアターのような5.1chのフル装備を揃えなくても、音楽鑑賞には2.1chの音響で十分です。もちろんDYNAUDIOで5.1chをそろえることも可能ですが、一度聴いてみれば十分であると納得がゆくかもしれません。

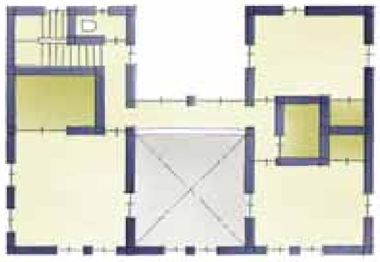
音のインテリアを楽しむためには、なによりも心が許される家族や仲間と一緒に過ごす時間を作ることです。そして好きな音楽をかければ、まるでライブハウスにいるかのような気持ちになります。木材にこだわったスピーカーから生み出された振動は、家の中に現された木材に響いてさらに深みを増します。せっかくの一戸建て住宅を検討するのであれば、そんな夢を描いてみてはいかがでしょうか？

取材協力：スピーカー
DYNAUDIO JAPAN 株式会社
東京都中央区新富1-16-12　新富アネックス
TEL.03-5542-3545
http://www.dynaudio.jp/

撮影協力：住宅
HABITA開成コーポレーション

キニナルマドリ

1階 22.5坪


2階 17坪

靴を脱がないで、どうぞ。

始まりはダイニングキッチンであった。家の中で土間にして暮らせる空間への試みである。想像するよりも、暮らしてみると意外な快適さを味わえる。考えてみれば日本でも土間に暮らした歴史の方が長い。だから座敷は上がるものである。

リビングまで土間を広げてみた。SORA・MADOを取り入れた。中庭のデッキはまさに縁側の感覚になる。ここでゆっくりと夕涼みを楽しみたい。

住計画 FURUTA

403 住まいのオーダーメード館

Kiss chair／LOVE シリーズ

ラブチェアシリーズは、椅子づくりを通じて恋人、親子、友人、動物、自然、などなど様々なLOVEを表現します。

大切にしたいのは刻々と変わる人の心と、それに伴い感じる相手との距離感です。近づきたい瞬間もあれば、そうでない事もあります。誰にも踏み込まれたくない心の場所があります。

LOVEとは一方的なモノではなく、互いの距離感を理解し尊重し合う事だと思います。

Kiss chairは恋人がキスする為のラブチェアーです。

座面中央の丸は手を繋ぐためのステージです。途切れたアーム部は恋人と手を繋ぐ事で繋がります。離れて座る事も、抱き合う事も出来ます。

恋人と自分の今、大切にしたい時間と距離を演出します。

住まいのオーダーメード館 403
東京都新宿区新宿1-2-1-1F
http://order403.com/
403 検索

材種：ウォールナット無垢材
仕上：ポアーオイル（下地剤）＋天然オイル仕上げ
商品価格:お見積り
403掲載商品No. G-0310_001

住まい文化の栞

傷があるからこその名器

手に入れた時には新しくきれいなものでも、いずれ汚れて壊れて価値を失ってゆく。特に現代の日本の社会の中では、そのように考えてしまいがちです。使い捨ての文化が広がることによって、常に新品を求める気持ちがどこかにあります。工業製品が蔓延し、プラスチック等の合成素材に囲まれることで忘れられてしまったのでしょう。たくさん作られていると思えば、簡単に新品に変えたくなります。特に住宅に関しては、ギャップが大きく欧米の古民家の価値の高さに比べて日本では古民家はむしろ忌み嫌われていると言えるほどです。

反面、日本語の「もったいない」が世界の共通語になろうとしているのを知ると不思議な気持ちになります。「もったいない」は正真正銘の日本の文化です。むしろ世界の中でも良いものを作り、大切にしてきたのが日本の民族であるはずです。

見本

その象徴のひとつに、金継ぎがあります。金繕い（つくろい）とも言い、割れた茶碗などを漆と陸稲の糊で修復し、金で装飾をして再利用します。むしろ、修復でできた痕を景色として楽しむほどです。

秀吉由来の金継ぎの名器「筒井筒の井戸茶碗」は昭和25年に重要文化財として指定されました。もともと由緒の深い茶碗ですが、一国と同等の価値で秀吉のものとなります。さらに、小姓が誤って割ったことで、さらに逸話が残り価値が高まりました。

住まいにも本物の木材を使えば、傷は増えてゆきます。しかしその傷は、まさに家族の逸話でもあります。景色を刻みながら、平成に建てた家を古民家になるまで使い続け、名品に育て上げて欲しいものです。

住健住康
じゅうけんじゅうこう

ワインは白より赤が体によい

適度なアルコールには動脈硬化を防いだり、インスリンの分泌量を適正化する働きがあります。まさに、「酒は百薬の長」の言葉どおりですが、だからといって、飲みすぎはもちろん禁物です。日本酒では1日1合（180㎖）つまりグラス一杯のお酒が適量だとされています。

お酒のなかでも体のことを考えるなら、ガンや老化の抑制に効果のあるポリフェノールが含まれている赤ワインがよいでしょう。

赤ワインをよく飲むフランス人は脂肪の摂取量が多いにも関わらず、動脈硬化が原因の心臓疾患にかかる人が少ないと言います。この理由は、赤ワインに多く含まれるポリフェノールが作用しているのです。ポリフェノールには細胞や遺伝子に影響する過酸化物質を抑え込む抗酸化作用があります。これにより、動脈硬化を抑えたり、ガンや老化を抑制したりします。

ブドウの中でもポリフェノールを含む部分が一番多いのは種で、全体の65～70％ほど。果皮は25～35％、果肉は2～5％ほどにすぎません。赤ワインは種、果皮、果肉すべてを使うので、ポリフェノール含有量は白ワインの約10倍。とりわけ、ポリフェノールが多いとされるブドウの品種は、フランス産のメルロー、カベルネ・ソーヴィニヨン、カベルネ・フラン、イタリア産のネッビオーロなどです。

さらに、赤ワインを飲むと尿酸値が減るため、同時に通風の予防にもなります。飲んでいる最中は、脳の中で「快感・快楽」を与える神経伝達物質のひとつドーパミンをたくさん作ります。これにより、気持ちもポジティブになり老化も防げます。もちろん、お酒を飲めない人は無理に飲む必要はありません。ワインといっても数万円もするような高級ワインでなくてかまいません。千円程度のものでもポリフェノールは含まれているので、赤ワインの入ったグラスを傾けながら、夕食を楽しんでみるのもよいでしょう。

好評発売中!
ワールドフォトプレス公式サイトhttp://www.monomagazine.com/
WORLD MOOK ワールドムック875
モノ・マガジン特別編集
mono no.03 デジタル
【モノ・デジタル】
定価680円(税込)
もはや日用品ともなった「パソコン」。もう一度、このアイテムの本当に秘めたチカラをあらためて見直します。そしてスマホ、テレビ、節電…今重要なデジタルなコトについて、わかりやすく解説しています。
〒164-8551　東京都中野区中野3-39-2　株式会社ワールドフォトプレス

特集1 もう一度その魅力を確かめよう
パソコンのチカラ
デジタルの?を!にする情報誌
特集2 地上デジタル移行対策
テレビ&レコーダー最終案内
緊急特集 ひと工夫でここまでできる
節電デジタル
節電デジタル
巻頭特集 最新機種はココで選べ
2011夏スマホ!

Green Earth

温室効果ガス25％削減目標 原発頼れず達成困難に

2009年9月、鳩山由紀夫前首相が国際的に公約した「2020年までに温室効果ガスを、1990年比で25％削減する」という日本の目標達成が困難になっています。東京電力福島第1原子力発電所の事故により、温室効果ガス削減の切り札であった原発に頼れなくなったためです。

菅直人首相も、この目標について「従来と変りない」と発言しているが、経済界が大きな懸念をもっており、この目標の見直しが大きな政策課題となっています。

国会で、審議中の地球温暖化対策基本法案の見直し協議に着手。この中で、同法案に盛り込まれた25％削減を取り下げて新たな目標を法律成立後に定める案や、25％の数値を残しつつも将来の見直しを規定する案などを検討。温暖化対策税を導入する時期の明記をやめたり、排出量取引の導入を見合わせる案なども議論されています。

目標修正の直接的な原因は原発事故です。政府が2010年6月にまとめたエネルギー基本計画は、30年までに14基以上の原発を増やし、電源に占める原発の割合を05年度実績の約30％から53％に引き上げるとしていたからです。

しかし、原発事故でこうした計画の実現は事実上、不可能になりました。原発を増やせない分を火力で補った場合、30年の温室効果ガス排出量はエネルギー基本計画での想定に比べて1億6600万トン増えます。25％削減の基準年である1990年と比べると、約13％も上積みされる計算になります。

温室効果ガスを、森林の充実で減らしたいと願うHABITAでは、森林が大きく傷んだ大震災からの一日も早い復興と継続的な活動に注目し続けます。

WE LOVE HABITA わたしたちのHABITA

木と共に生きる家

年月を経て味わいに変わる家が良かった、と語るのは埼玉県新河岸にあるHABITAにお住まいのお客様。歳月と共に飴色になり、味わいを増す木組みの家。それはただ道具として家を使うのではなく、木と共に生きる事を日々感じる住まいになる。これは、大断面木構造のHABITAならではの特徴。リビングを見上げると大きな吹き抜け、大開口の窓よりさんさんと光が差し込んでいる。無垢のフローリングが光を柔らかくしている為に暑さは感じない。冬も窓が結露せず暖かく過ごしやすかったと奥様。吹き抜け中央にはブリッジがかけられ、ベランダに出られる。狭い家でも広く感じるという御主人の言う通り開放感あふれる住まいである。

建設した、さいたまスタジオさんに対しては、「細部にわたり最良の手段で夢を叶えてくれた。まるで自分の家を建てるかのように一生懸命考えて作ってくれました」と嬉しいお言葉。住まいづくりは夢づくりだということを肌で感じられる住まいがそこにはあった。

住まいづくりにちょっと役立つドキュメントTV

HABITA/TV

HABITA/TV 検索

詳しい内容は、HABITA/TVの4ch、『HABITA さいたまスタジオ お客様インタビュー』で紹介しています。

豆ハビ

カフェスタイルの住まいかた

古民家でよく見る土間。土間の床は三和土（たたき）といって、土、石灰、砂利の三種類の材料を混ぜ合わせて、叩いて固めてつくるんだ。この三和土から直接座敷に上がる。玄関ホールがあるよりもモダンなインテリアになるよね。でも、どこか伝統的で懐かしい感じ。カフェスタイルの住まいかたの見本だと思うんだ。大きな土間は、みんなが集まる空間と一体になって仲よしの家になるのさ。

見本

5th Room

里山

今では、すっかり残り少なくなった昔懐かしい里山。そこに生きる植物や昆虫などを通して、人と自然との接点である里山の重要性を感じます。

里山に限らず、森にはいろんな役目があります。例えば災害を防ぐ役目です。高い木々は、台風や砂ぼこりなどをやわらげてくれます。また、木々が根をはる大地はスポンジのように水を吸い、土砂崩れや洪水を防ぎます。日本の山々が人工林で根が浅くなり、保水効果が薄れると、山崩れや鉄砲水などがしばしば起きてしまいます。

空気をきれいにする役目もあります。今、私たちの暮らす地球は、二酸化炭素が多すぎる状況になっています。植物は光合成によってこの二酸化炭素を吸って、自分の活力に使っているのです。

日本の多くの里山は、40年ほど前から急に人がいなくなりました。その結果、草木が乱雑に茂った「薮」になり、場所によってはゴミ捨て場になっているところもあります。昔は子どもの遊び場や地域に住んでいる人たちの憩いの場だったのに、今は誰も寄りつかなくなっています。

すべては効率という言葉の元に人口が都会に集中し始めた頃から変わりました。その頃は豊かな自然の元に豊かな心、そして貧しいながらも家族、隣人、自然との語らい、みんなの心も豊かでした。今の生きる価値判断はお金という物差しで計られていますが、はたしてそれで良いのでしょうか。住まいが自然から学ぶべきことは限りなくあります。ある時は自然に逆らわず、自然の力を認め、自然を取り込み共生して生きていく。そんな考え方がすばらしい住まいに繋がるのではと感じます。メダカや魚、鳥や多くの虫たち、カエルや蛍がいる川のせせらぎや夕暮れなどの季節の癒し…。「暮らす」という基本から考え、多少貧しくても、心が貧しくないそんな人たちの地域やコミュニティータウンが必要ではないでしょうか。

TAKASHO

「ポーチガーデン®」
家と庭をつなぐ、もう一つの部屋。

折戸パネル仕様で、フルオープンにすれば開放的なガーデンルームに。

ライティングをプラスして、夜でも快適なくつろぎの空間をつくります。

屋外で気軽に家族団らんが楽しめるもうーつのリビングとして。

詳しくはホームページへ！ タカショー 検索

やすらぎのある空間づくり
株式会社タカショー 和歌山県海南市南赤坂20-1 〒642-0017 お客さまサービスセンター 0120-51-4128

5th ROOM L+D+K+B & G（五番目の部屋）

Weekly HABITA
www.habita200.jp/
第55号 2011年 7月15日 発行:MISAWA・international株式会社 〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 TEL.0120-420014
100円